

在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

<連絡所> 在京花巻ふるさと会事務所
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-4-8
東京中央ビル 603 号室
TEL 03-6256-8082・FAX 03-6526-8083
<事務局> 〒187-0031 東京都小平市小川
東町 1817-39 大竹雅夫方
TEL : FAX 042-332-3025

こ
あ
い
さ
つ



在京石鳥谷町人会
会長 高橋 弘美

会員の皆さま、こんにちは。高橋弘美でございます。皆様におかれましてはお健やかに過ごしていることとお慶び申し上げます。

平成 28 年の初回の「町人会だより」を皆様にお届けするにあたり、まずは昨年中に皆さまから在京石鳥谷町人会に寄せられたご支援、ご協力に對しまして心より御礼を申し上げます。

昨年から今年にかけて世の中でのいろいろなことが起こりました。許しがたい国際テロ活動やそれに伴う難民問題、南シナ海の緊張に代表される中国の台頭等の国際秩序の新たな危機。グローバル経済の動揺による株価のジェットコースター並みの乱高下や、日本を代表する老舗企業の不祥事。繰り返される大型バスの痛

ましい事故では将来ある若者の多くの命が失われました。

一方では北陸新幹線の開業、一昨年に続くノーベル賞の受賞、ラグビーワールドカップでの日本代表の活躍など明るい話題もありました。たしかに世の中悪いことばかりではないと思いつつも、良いこと悪いこと、あるいは善悪の単純な基準では図れない事柄の振幅が大きすぎて思わず不安感が高まってしまつてというのが私の実感です。こうした事柄は多分昔からあったのだらうと思いますが、現代社会ではヨーロッパや地球の裏側のでき事が、コミュニケーション機能の凄まじい発達によって、まさに目の前で起こっているかのようになスピード感とリアル感で迫ってくるものが、大きく影響していると思います。押し寄せる多くの情報の的確な取捨選択、そして正しい価値判断による責任ある行動を心掛けていきたいものだと思います。

さてわが在京石鳥谷町人会におきましては、昨年自主運営開始 10 年目を迎えました。これまでの運営に大変ご尽力頂いた前会長の熊谷さん、前副会長の河嶋さん、副会長の大竹さんの三氏に会員皆様のご賛同を頂いて感謝状を贈呈させて頂きました。

当会の発足そのものは昭和 63 年で、一年後の平成 30 年(2018 年)には設立 30 周年(総会 31 回目)を迎えることとなります。30 年ともなりますと大変歴史のある活動の一つになるわけであります。毎年々々着実に実績を積み上げて、意義のある楽しい会を未来に向けて継続していきたいと思っておりますが、そのための最大のハードルは会員の高齢化と減少であります。

このところ政府は「日本再興戦略」で「国民の『健康寿命』の延伸」を掲げています。健康寿命とはテレビの「マーシャル」にもありますが、健康上の問題なく日常生活を普通に送れる状態にあることをいいます。在京石鳥谷町人会としても会員の新規加入には努力して参りますが、それはそれとして会員の皆様におかれましては日本政府の方針に則り、是非『健康寿命』の延伸に一層のご努力を頂き、毎年々々の総会・親睦交流会に必ず元気にお運び下さり、会員の減少に少しでも歯止めをかけて頂きますよう心からお願ひ申し上げます。これからも幹事一同頑張っておりますので、引き続き皆様のご協力、ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

昭和27年度総会滞りなく
終える、席上三氏に感謝
状授与



在京石鳥谷町人会総会は、11月1日上野精養軒にて148名の出席のなかで開催された。事前に用意された2件の議題が承認された後、石鳥谷町と花巻市との合併を機に自主運営となった町人会が10年を迎え、この間、会の維持・運営に多大な貢献があった熊谷氏(前会長)・河嶋氏(前副会長)・大竹氏(副会長)の三氏に対し、記念品を添え感謝状が授与された。写真は左から河嶋氏、熊谷氏、大竹氏の順である。

感想 石鳥谷町人会に参加
して
下川 一子(川崎在住)

今回私は初めて参加したので、今までの会と比べることは出来ませんが、総会については滞りなく進んでおりましたし、特に問題はなかったと思います。ただ、ウエルカムドリンクはお酒のみであったため、お酒の飲めない方々の中には親睦会まで何も飲む事が出来なかったようで、ご自分で飲み物を買われていらっしゃいました。

親睦会については、さんさ踊りなども間近で見られて面白かったですし、想像していたよりは楽しめましたが、さんさ踊りで若い方々がたくさん出席されていたからでしょうか、当日の料理がとても少なく感じました。料理の品数も少なかったですし、お昼時に開く会には残念に思いました。

また今後のことを考えますと、若い人たちにももっと参加してもらわなければならないでしょうし、そのためには参加したくなるような企画内容に変えていく必要があると思います。



新堀コミュニティ会議のみなさんと一緒に



恒例の女子会員によるフラダンス

懇 親 会 風 景



フィナーレは「石鳥谷音頭」を参加者全員で



会食懇談風景

躍動感あふれる華麗

な演舞に魅了

ふるせいわんせき会 (新堀地区)

在京石鳥谷町人会親睦交流会に
参加して

ふるせいわんせき会 藤原 一也



新堀地区コミュニティ会議の在京町人会公演支援事業の一環で11月1日に東京上野の精養軒で開催された在京石鳥谷町人会親睦交流会にふるせいわんせきが参加しました。私たち

ふるせいわんせきは、発足当時より親子のふれあいを大事にして練習や活動を通じて親子の絆を深めることを方針に会員のほとんどが親子の会員となっております。また発足当時地元で芸能と呼ばれるものが無かったことから、ふるせいわんせき会の方々が踊り、太鼓を芸能として世代を通じて伝承する活動を行っております。

今回は会員約70名のうち22名の参加となり内訳は、小学生3名、中学生2名、高校生1名、成人16名で、親子では4組の参加となりました。親睦交流会では「十二拍子」、「一番」、「七たぐすし」、「栄夜差踊り」、「福呼踊り」、「わんせ里唄」の6演目の演舞を行いました。子供たちは、交流会場の出席者が約150名と多かったこともあり、少し緊張気味であったようですが、演舞を終えると会場から沢山の拍手や歓声をいただき、アンコールの掛け声もありました。テーブルに戻ると「すばしかった、感動した」と沢山のお褒めの言葉をいただきました。会の参加者のなかには、感動のあまり涙ぐんだ方もいらっしゃったと聞きました。最後の演目の「わんせ里唄」は、ふるせいを思ふ歌詞になっていて歌手の白澤みゆあんの歌声と音楽、太鼓の音で石鳥谷を懐かしく思う気持ち

ちに響くものがあり、感動していただけたのかなと思っております。

ふるせいわんせき会がさんさ太鼓、踊りの芸能を伝承し、未来の子供たちへつないでいく活動がこのよつな形で石鳥谷を懐かしく思う方々の前で演舞できたことを大変光栄に思います。今回のように会場の方々にこれほど喜んでいただき、大変感銘に終えた事が私たちの活動の中でもあまり経験がなく演舞を無事終えて私たち自身大変嬉しく思っております。これからも石鳥谷を大事に思い活動していきたい。さらに練習を積んで多くの方に喜んでもらえるようにという気持ちを新たにしました。

最後に、当日の開催まで準備に携わった町人会役員の皆様へ感謝申し上げます。親睦交流会参加の感想と感謝の言葉にしたいと思います。大変あがとうございました。

在京石鳥谷町人会に参加して

ふるせいわんせき会 石川 永子

初めて参加した石鳥谷町人会は、楽しいものでした。十数年振りにお会いできた方がいて、とても嬉しかったです。

私の父は新堀出身ですが、昭和40年

前後東京で働いていて、私は東京オリピックの年に墨田区で生まれまして、5才の時に戻りましたので、ほとんど新堀っ子として育ちました。毎年6月10日には石鳥谷祭りパレードが盛大に行われますので、今年の秋は是非みなさん、石鳥谷町に足を運んでください。お待ちしております。

在京石鳥谷町人会の感想

ふるせいわんせき会 清水 美里

今回、在京石鳥谷町人会に出演させていただきました。会場の皆様から沢山の喜びのお言葉を頂戴して大変嬉しく思いました。

地元の郷土芸能に触れる機会というのは、その地を離れるとなかなか少なくなってしまうものかと思えます。そういった中で、石鳥谷を離れてすいている方々が故郷に想いを馳せるきっかけをさんさ踊りを通して作る事ができたのは本当に良い経験になりました。石鳥谷町をさんさ踊りを愛するものとしてこれからも守り続けていきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

在京石鳥谷町人会親睦会に
参加して

石鳥谷町人会 会員

菊池 由姫 (中学二年)

この度はふるさとごきん会の発表をみていただきありがとうございます。この機会に、私も民謡をひらひらさせていた

また、私も民謡をひらひらさせていた。曲は「南部のしゃれ節」を歌わせていただきました。たくさん

のひとたちの前で踊りはとても新鮮で楽しかったです。ましがえずに踊れたので少しホッとしました。最初はとも緊張して

ただと踊った後は、汗といっしょに緊張も流れてしまったせいかな、とてもスッキリしました。東京にいつか踊るといって、めったにない体験をさせていただけありがとうございます。



町人会へ参加して

石鳥谷町人会 会員

佐々木 彩乃 (中学二年)

今回石鳥谷町人会に参加してとても楽しくおどることができ、これもみなさまのおかげだと感謝しています。

わたしのおじさんも来ていて一年ぶりに会うことができ、また機会があれば参加したいと思います。

みなさまもお体に気を付けてこれからもいろいろがんばってください。



町人会の感想

石鳥谷町人会 会員

藤原 健吾 (小学四年)
藤原 咲弥野 (小学一年)

先日、さい京石鳥谷町人会がありました。ぼく達はさんごに出えんして太鼓をたたきました。初めは人がいっぱいできんちようしたけれど、きれいに出来てしつかりと練習した成果が出せました。アンコールは出来なかったけれどみんながよろこんでくれて、はく手をしてくれたので良かったです。今度は十二びょうしも練習して、また



10月30日土曜日のあさ大がたバスにのって新堀を出発しました。ばすのいっしょは、つかれたけど高さのSAできゅうけいをたくさんしながら東京に着きました。そしてみなで東京スカイツリーにのぼりました。高いところから見る東京は、夜がいがとってもきれいだなーと思いました。

次は、お台場に行ってママトコに行って、タごはんを食べました。バイキングだったので好きな食べ物ばかり食べてしまいました。

次の日はいよいよ本番です。上野の会場にはたくさんの方がいました。さんごのじゅんぴをしてステージに上がりました。

十二びょうしから始まりました。一番、二番、三番、四番のうたごえんをうたいました。お客さんからたくさんのはくしゅをもらいました。うれしかったです。

町人会の感想

石鳥谷町人会 会員

小山 大翔 (小学三年)

「東和町友会の集い」に参加して
飯塚 悦子八幡出身



右から二人目 大竹副会長、続いて川村副会長

昨年 11 月 15 日「第 37 回東和町友会の集い」が、東京ガーデンパレスで開催され、石鳥谷町人会からは大竹副会長と川村副会長が出席され、私は東和友好会として出席しました。110 人を超える参加で盛会でした。蟹澤会長の「挨拶」に始まりプログラム通りに進行。スピーチタイムになり、顔見知りの方が何人かおられ、久しぶりに近況等を話し合い大いに盛り上がりました。

宮古市出身のプロ歌手の歌、そしてドキドキ抽選会、私は、クジ運は良くないのですが、何故かお米が当たり超ビックリ！（嬉しいー）でした。

とは今も変わらず「の合唱でお開き。胸にジーンとくるものがあり、いい歌でした。心温まる和やかな会でした。蟹澤会長を始めとするスタッフの方々のお心づかい有難うございました。

花巻人形、目黒雅叙園にて
初公開



展示されていた古今雛

「百段雛まつり・みちのく雛紀行」というテーマの雛飾り展が 3 月 6 日まで目黒雅叙園で開催されました。われら田舎の花巻・大迫町のお雛さまは、段飾りや花巻人形など、個人と市博物館の所蔵品約 180 点が展示されていました。展示は東京都指定有形文化財である「百段階段」に沿った部屋である「十畝の間」と「魚樵の間」の二間にわたっており、いずれも重厚かつ豪華絢爛であり、係りの人によれば、7 間のなかでも最高の部類にはいるとのことでした。

見学した日が 3 月 3 日ということもあり、ものすごい混雑でゆっくりみることができなかったことが心残りでした。

日本テレビ「笑ってこらえて
ダーツの旅」で石鳥谷町紹介



日本テレビの映像

ご覧になった方も多いのかも知れません。3 月 2 日に日本テレビ系列の番組「笑ってこらえてダーツの旅」で石鳥谷町が紹介されました。インタビューは、いま若者に人気のある藤原竜也さんでした。傑作だったのは中高年と思われる地元男性との会話で方言を理解できず悪戦苦闘していたことです（50 分ぐらいのインタビューとのことであるがほとんど理解できなかったそうです）。在京石鳥谷町人会として嬉しかったのは、毎年お世話になっている川村三郎町人会副会長の実家である「南部関」の会長と社長が取材に応じていたこと、そして三年前の町人会にご出演願った八日市の「つるし雛まつり」

に関わっているご婦人方の映像が流れたことです。

全日本「綱引選手権大会」
石鳥谷女子チーム 16 回目の出場

全日本綱引き選手権大会は 3 月 6 日（日）、駒沢オリンピック公園総合運動公園体育館で開催されました。今年の大会女子の部で出場したのは 31 チームでした。石鳥谷女子チームは総当たりとなる第 2 フロックの予選リーグから出場しました。わが町人会からは高橋会長、大竹、川村、佐藤各副会長、河嶋参与が応援にかけつけましたが奮闘虚しく残念ながら決勝に進むことはできませんでした。出場した選手のみなさんに熱いエールを送りたいと思います。お疲れ様でした。



「宮沢賢治生誕120年記念」
「花巻市・地方創生総合戦略」
菊池 善男 (好地出身)

宮沢賢治記念館が昨年4月に、「科学」「芸術」「宇宙」「宗教」「農」のジャンル毎のリニューアルが完了、オープン後「イーハトーブ館」共々来館者の賑わいが続いています。8月1日、栃木県からの家族の入館者で、開館33年目での七百万人を達成している。

28年度も、宮沢賢治生誕120年記念事業実行委員会(会長・上田東一市長のもと)に様々な事業検討・決定が進んでいます。宮沢賢治学会イーハトーブセンターでも、「国際研究大会」(8月27、29日)をはじめ、魅力的な記念事業を3月の理事会で決定予定です。

27年度に参加した宮沢賢治学会の主な活動を振り返ってみますと、4月「京都セミナー」、5月「館野楽・コンサート」(花巻)、7月「夏季特設セミナー」(心象スケッチという方法をめぐって)、8月「宮沢賢治と津軽イン弘前」のタイトルでの「弘前セミナー」、9月第25回「宮沢賢治賞」の吉見正信先生、「イーハトーブ

賞」高畑勲氏の両氏等の受賞表彰式・受賞講演があり、翌日には研究者5人の研究発表会が開催されています。(※賢治学会イベントは殆どが会員以外の方も参加できます。)

他に、3月第2回「東北農林管弦楽団」(花巻市文化会館 ※第1回青森・弘前)、7月宮沢賢治研究会(東京修学旅行(岳神楽鑑賞・早池峰登山)、9月北三陸・普代村主催「宮沢賢治詩碑建立記念式典」、11月(本郷・求道会館)「林洋子ひとり語り宮沢賢治クランボンの会35周年記念公演」、今年2月第3回「東北農林管弦楽団」(宮城・仙台)などがありました。尚、宮沢賢治研究会(東京)の研究発表等の例会は、毎月第1土曜日に開催されています。関心をお持ちの方はどうぞお声がけください。今後共、賢治学会・理事、賢治研究会・役員、東北農林管弦楽団・後援会事務局長等の役割を精一杯務めたいと思っております。

人口減少時代に入り、将来消滅自治体も予測される中、我が国の人口を2060年に1億人程度に人口を確保するという国のビジョンを受けて、全国の自治体が「人口ビジョン」

と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015～19年度)を3月末期限に向けて目標策定を進めています。花巻市も2000年人口10万7175人、2015年12月人口9万8956人、2060年社人研予測人口5万6569人を目標7万3500人に増加設定するなど各種目標数値を策定し3月公表予定です。在京石鳥谷町人会としても、故郷花巻市・石鳥谷の「地方創生」に大いに関心を寄せ、それぞれの立場で努力し続けたいと思っております。

<参考>	花巻市 (人)	北上市 (人)
2000年国勢調査	107,175	91,501
2010年国勢調査	101,438	93,138
20～39歳女性	10,222	10,881
2015年12月	98,956	93,696
2016年成人式・人口	968	979
2040年社人研予測	68,691	73,437
2060年社人研予測	56,569	61,097
市・人口ビジョン目標	73,500	74,000
社人研比	+16,931	-12,903



写真の桜は、北上市展勝地から小金井に里帰りしたヤマ桜です。もう散ってしまいましたが、現在玉川上水の小金井橋のたもとに植えられています。なぜ「里帰り」か、それは大正10年に北上・展勝地公園に移植された桜の苗木が数年前、当地に帰ってきたからなそうです。来年ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

武蔵の国に故郷の先人の跡を訪ねて「第2回」

川村政義(新堀出身)

韓国の女子教育に一生捧げた淵澤能恵の足跡(その1)



右の写真の女性はごなたかご存知だろうか、いまから130年以上前にアメリカで撮られた30歳代の淵澤能恵である。現在、彼女がかつて学生として籍を置いた京都にある同志社大學が所蔵している。

さて、今回取り上げる淵澤能恵は、1850年に陸奥国関口村(八重畑)に生まれている。彼女の人生を大まかに時代区分すれば右手在任時代、渡米から同志社女学校を退学するまでの時代、東京の女学校や塾の教師時代、韓国に渡って女子教育に捧げた時代の四つになる。ついで。

本シリーズ連載の趣旨に沿えば、彼女が明治18年から38年までの期間の

うち下関、福岡、熊本時代を除いた東京在住の概ね14、5年の足跡を紹介するのが筋である。が、能恵が果たした最大の社会貢献が韓国の女子教育に後半生を捧げたことであることを考えればまずこのことについておくことが肝要であろう。

韓国ソウル市特別市龍山区に学校法人淑明学院がある。女子中・高等学校、女子大学(八学部)から成る総合学園である。大学は、1948年に設置され、名門女子大学としてランキング的にも高く評価されているようである。この学園の前身は1906年に設置された「明新女学校」で、本年で創立110周年になる。この学校のホームページによれば「韓国の民族女子私学」であると解説しているが、実は創立には故郷の先人、淵澤能恵が大きくかかわっている。

千代田区北の丸公園に国立公文書館がある。ここには日本政府の行政機関から移管された公文書を保有し一般に公開している。この組織のなかに「アジア歴史資料センター」が開設されており、誰でも、インターネットによりデジタルアーカイブ資料を閲覧することができる。そのなかに、淵澤能恵関連資料(叙勲上奏のための添付資料である「履歴書」「功績調査書」等)

が38頁にわたって公開されている。

「履歴書」の冒頭には「原籍、岩手県稗貫郡八重畑村字関口五拾五番地、士族。現住所、京城府豊台洞八拾番地。淵澤能恵、嘉永3年5月8日生」とある。「功績調査書」には、「明新女学校」の開設に向けた経緯と能恵の奮闘ぶりが詳細に記されている。彼女の人生にこの最大の転機となるこの学校の開設は韓国における女子教育の濫觴のひとつとなる。関心のある方は、原文をインターネットでご覧いただきたい。本稿では字数の関係もあるので内容を次のとおり要約した。

イ 淵澤能恵、明治38年5月に渡韓し朝鮮婦人の状況を視察、女子教育の必要性を感じる。

ロ まず日鮮婦人の輯睦を図り進んで教育機関の施設に及ばんと欲し日鮮婦人会の組織及女学校の設置を企て東奔西走遊説してついで。

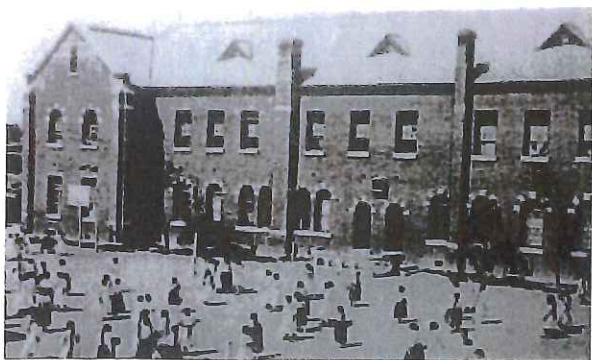
ハ 当時の朝鮮では女子教育の機運が熟しておらず苦心する。計画通り進まず中断するしかない状況に陥る。

ニ その後この計画の主旨が、日本と朝鮮の有志から賛同を得られるようになり、さらに故敵貴妃殿下に知られ、妃殿下の援助を得るこ

とができるようになる。妃殿下は女学校設立について、李貞淑と淵澤能恵に託すことになる。

ホ 妃殿下は朝鮮両班女子教育のために維持資金を補助支給され他の有志の協力を得て、学校の組織をなし、敵妃下付の家屋を校舎として、明治39年5月22日、明新女学校として、開校を見ることになる。

これら一連のことを「履歴書」では「明治38年5月朝鮮京城二来り女学校ノ設立を計画シ同39年5月私立明新女学校ヲ設立シ学校ノ経営及生徒ノ教育ニ従事ス」と記されている。



淑明女子高等普通学校時代の校舎(1911年)

その後この学校は、数回校名変更が行われ、明治45年1月に財団法人淑明女子普通学校として朝鮮総督府の認可を受け、能恵は同法人の最高責任者である理事、評議員として学園の経営にあたり、教学面では学監の立場で生徒指導にあたってこころ。

私は、これまで「淵澤能恵」という人物について深く知る機会がなかった。今般、本稿の執筆にあたり関連の文献を漁り調べて「なぜ」という疑問符のつく事歴が多いことに気づいた。その最大のこととは55才にもなって韓国に渡り女子教育を始めた理由がどこにあったのかということである。宮澤正典氏の論文「淵澤能恵—韓国女子教育に献身した女性—」によれば、「貴族院議員子爵岡部長職夫妻が韓国の視察旅行に誘い明治38年5月韓国に赴いた。旅行中赤痢に罹り、療養中この国の女性たちのおかれた状態を見て、余生をこの地で教育に捧げる使命を感じた」とことがあげられている。どのような裏づけ資料にもいじつたものなのか未見であるが、私自身思うに、韓国の女子教育に携わることになるのは、決して療養中の偶然の出来事ではなく、彼女をめぐる人脈等に鑑みると、既定の事実であったよつな気がつてならない。

彼女の行った韓国での教育活動に対する評価をめぐっては、日本の植民地政策を教育面から遂行した人物として否定的な見方をする人もおり、評価もいろいろ分かれるようである。そもそも人間のやることで一から十まで悪とか、一から十まで善なということはある得ない。必ず一長一短がある。その得失を感情に溺れず冷静に判断していくのが正しいと思う。その点から、当時の韓国内の女子教育の実情を踏まえると肯定的な評価を与えて然るべきではなからうか。(次号に続)



右の写真で前から2列目の左から3人目に写っているのは晩年の淵澤能恵。そして、右手出身の後藤新平、齋藤実と続く。(場所は朝鮮総督府か)

平成27年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会収支報告(平成27年11月1日 単位:円)

収入	支出	残高	備考
592,000			総会参加者 76名(同伴含む)
355,000			招待者からのお祝い
	1,411,012		総会準備費(案内状・印刷・コピー)、精養軒、他支払い
947,000	1,411,012	-464,012	

今後の主な行事(予定)

- ◆ 4月3日(日) 第15回 下町散策
 - 日本橋川クルーズ
 - クルーズ船から隅田川河畔の桜をめぐるプラン
- ◆ 5月20日(金)～22日(火) ふるさと復興支援ツアー 一関～遠野～陸前高田
 - 費用 40,000円
 - 締切 4月30日(先着40名まで)
 - 幹事担当 東和町友会
- ◆ 11月6日(日) 平成28年度在京石鳥谷町人会(総会・親睦交流会)
 - 上野 精養軒
 - 11:30～(受付10:30より)
 - 郷土芸能は八重畑地区の皆さんを予定

<在京石鳥谷町人会HP>
<http://zaikyoisidoriya.web.fc2.com/>